

吉田睦先生略歴

略歴

- 1958年 千葉県市川市に生まれる
- 1974年 神奈川県立湘南高校入学
- 1977年 神奈川県立湘南高校卒業
- 1977年4月 京都大学文学部入学
- 1981年3月 京都大学文学部卒業
- 1981年4月 外務省入省
- 1982年7月 在ソ連邦日本国大使館 (1984年6月まで)
- 1984年7月 在ソ連邦ナホトカ市日本国総領事館 (1986年8月まで)
- 1988年8月 内閣官房内閣情報調査室 (出向) (1990年8月まで)
- 1992年9月 外務省退職
- 1992年11月 ロシア連邦科学アカデミーロシア史研究所学位請求資格研修員
- 1994年3月 ロシア連邦科学アカデミー民族学人類学研究所大学院入学
- 1997年9月 ロシア連邦科学アカデミー民族学人類学研究所大学院修了
- 1999年4月 千葉大学文学部助教授
- 2006年4月 千葉大学文学部准教授
- 2009年4月 千葉大学文学部教授
- 2015年4月 在外研究 (ケンブリッジ大学) (2016年3月まで)
- 2017年4月 千葉大学大学院人文科学研究院教授 (2024年3月まで)
- 2021年4月 千葉大学人文公共学府地域研究センター長 (2024年3月まで)

学会関係

- 2016年 ~2022年3月 日本シベリア学会幹事
- 2019年6月~2022年3月 日本シベリア学会会長

委員歴

学内 (委員長以上)

日本文化学科長、教務委員長、日本・ユーラシア文化コース長、広報・情報委員長
各種人事委員会委員長

学外

2009年3月 北方民族博物館研究協力員

2011～2014年 北方民族博物館・北方民族文化シンポジウム運営委員
(第26～29回「環境変化と先住民の生業文化」)

吉田睦先生著作目録

著書（単著・共著）

1. З.П. Соколова (ред.), Социально-экономическое и культурное развитие народов Сибири и Севера: традиция и современность. Москва: Институт этнологии и антропологии РАН 1995.
担当：А.Ёсида, Современная ситуация традиционной культуры питания Гыданских ненцев (Ямало-Ненецкий А.О.)
(Z.P.ソコロヴァ編『シベリア北方諸民族の社会・経済的及び文化的発展：伝統と現代性』1995. モスクワ：ロシア科学アカデミー民族学・人類学研究所出版)
(担当：吉田睦（露文）「ギダン半島（ヤマル・ネネツ自治管区）のネネツの伝統的食文化の現状」77-117)
2. Ацуси ЁСИДА, Культура питания гыданских ненцев (интерпретация и социальная адаптация). Москва: Институт этнологии и антропологии РАН. 1997. 252 с.
(吉田睦『ギダン・ネネツの食文化 解釈と社会適応』（露文）1997. モスクワ：民族学人類学研究所出版 252 頁（単著）)
3. Народы Сибири (Сибирский этнографический сборник 8) Книга 3, Москва: Институт этнологии и антропологии РАН, 1997. 304 с.
担当：А.Ёсида, В поисках предков гыданских ненцев (по литературным источникам). Стр.140-170.
(『シベリア諸民族（シベリア民族学論集 8）第 3 卷』1997. モスクワ：民族学人類学研究所出版 304 頁)
(担当：ギダン・ネネツの祖先の探求（文献資料に基づく研究）140-170)
4. 『トナカイ牧畜民の食の文化・社会誌～西シベリア・ツンドラ・ネネツの生業と食の比較文化～』2003. 彩流社 274+28 頁（単著）ISBN: 4882028093
5. 『北アジアにおける人と動物のあいだ』小長谷有紀（編）2002. 東方書店 367 頁（共著）ISBN: 4497202135
担当：「シベリア先住民における魚の禁忌と聖性」（43-71 頁）
6. Е. А. Пивнева, Д. А. Функ (отв. ред.), В поисках себя: народы Севера и Сибири в постсоветских трансформациях. Москва: Наука, 2005. ISBN: 5020335185.
担当：А.Ёсида: Современное оленеводство тазовских ненцев стр.40-64.
(Е.А.ピヴネヴァ、D.A.フンク編 2005.『自己の探求：ポストソヴィエト期の変革におけるシベリア・北方諸民族』モスクワ：ナウカ社 216 頁)

- (担当：「ターズ・ネネツ人の現代トナカイ牧畜」(40-64頁))
7. 『極北 (世界の食文化 20)』岸上伸啓 (責任編集) 2005. 農山漁村文化協会 253 頁 ISBN: 9784540050060
担当：「第4章西シベリアの先住民族」(161-206頁)
 8. 『ヨーロッパ (講座世界の先住民族 06)』綾部恒雄 (監修)、原聖、庄司博史 (編) 2005. 明石書店 421 頁 ISBN: 4750321346
担当：「19 ネネツ (極北のトナカイ遊牧民)」(336-351頁)
 9. 『東北アジア (朝倉世界地理講座-大地と人間の物語 2)』岡洋樹、境田清隆、佐々木史郎 (編) 2009. 朝倉書店 391 頁 ISBN: 97842541679242009
担当：「第3章 3.2 石油・天然ガス開発とツンドラの荒廃」(99-108頁)
「第4章 4.1 帝政期ロシアのシベリア統治」(119-129頁)
 10. 『開発と先住民(みんぱく実践人類学シリーズ7)』岸上伸啓(編著)2009. 明石書店 365 頁 ISBN: 9784750330907
担当：「第2章ロシア・西シベリアにおける石油・天然ガス開発とトナカイ牧畜民」(35-61頁)
 11. E. A. Пивнева (отв. ред.) Этнокультурное наследие народов Севера России: к юбилею доктора исторических наук, профессора З. П. Соколовой, Российская акад. наук, Ин-т этнологии и антропологии им. Н. Н. Миклухо-Маклая. - Москва: ИЭА, 2010. 304 с., ISBN: 978-5-4211-0028-7.
担当：A.Ёсида, Оленеводство ламыхинской группы эвенов в современных условиях (ГУП «Себян»). С.221-234.
(E.A.ピヴネヴァ編『ロシア北方諸民族の民族文化遺産 (Z.P.ソコロヴァ歴史学博士・教授生誕80周年記念)』モスクワ：民族学・人類学研究所出版)
(担当：「現代的条件におけるラムィヒン・エヴェンのトナカイ牧畜 (セビャンキュヨリ村国営企業「セビャン」)」(221-234頁))
 12. 『極寒のシベリアに生きる：トナカイと氷と先住民』高倉浩樹 (編著) 2012. 新泉社 257+13 頁 ISBN: 9784787711120
担当：第6章「シベリアのトナカイ牧畜・飼育と開発・環境問題」(137-156頁)
 13. Н.В.Лукина (ред.), Исследования по культуре ненцев: сборник статей / Гос. казенное учреждение Ямало-Ненецкого авт. округа "Науч. центр изучения Арктики" Санкт-Петербург: Историческая иллюстрация. 2014. 286с., ISBN: 978589566141.
担当：A.Ёсида, Этническая история тазовских ненцев. С.113-129.
A.Ёсида, Этническая культура тазовских ненцев и ее трансформация. С.130-151.
(N.V.ルキナ編『ネネツ文化研究論集』2014. サンクト・ペテルブルグ：イストリーチェスカヤ・

- イリュストラッツィヤ社 286 頁)
(担当:「ターズ・ネネツ人-民族の歴史」(113-129 頁)
「ターズ・ネネツ人-民族文化とその変容」(130-151 頁))
14. 『食と儀礼をめぐる地球の旅:先住民文化からみたシベリアとアメリカ』高倉浩樹、山口未花子
(編) 2015. 東北大学出版会 219 頁 ISBN: 9784861632501
担当:2.「シベリア・トナカイ牧畜先住民における食の多様な世界」(33-59 頁)
15. 『シベリア:温暖化する極北の水環境と社会』檜山哲哉、藤原潤子(編著) 2015. 京都大学学術
出版会 512 頁 ISBN: 9784876983155
担当:第 11 章「資源動物利用に関わる環境変動と住民の適応」(385-420 頁)
16. 『ロシア(世界の地誌シリーズ 9)』加賀美雅弘(編)2017. 朝倉書店 177 頁 ISBN: 9784254169294
担当:第 4 章「世界の穀倉地帯 ロシアとその周辺:ウクライナ、中央アジア」、「モスクワ市内
のパン事情」(コラム)、(37-52 頁)
第 10 章「多様な民族と地域文化」、「多民族国家ロシアーモスクワの民族料理店事情」(コラム)
(128-142 頁)
17. T. Hiyama, H. Takakura (eds), *Global Warming and Human-Nature Dimension in Northern Eurasia*
(*Global Environmental Studies*) 2017. Springer. 224p. ISBN: 9789811046483.
担当:A. Yoshida, “Chapter 9 Reindeer Herding and Environmental Change in Reindeer Herding Regions
of the Sakha Republic: Comparison with the Yamal-Nenets Autonomous District” (145-160 頁)
18. 『アジアとしてのシベリア:ロシアの中のシベリア先住民世界(アジア遊学 227)』永山ゆかり、
吉田睦(編) 2018. 勉誠出版 271 頁 ISBN: 9784585226932
担当:「はじめに(シベリア~ロシアとアジアの狭間で~)」(4-9 頁)
「シベリア史における先住民の成立ー先住民概念と用語について」(66-81 頁)
19. 『食の世界を生きる:食の人類学への招待』河合利光(編) 2021. 時潮社 229 頁 ISBN:
9784788807495
担当:第 4 章 1「食環境の変化と共生」(170-189 頁)
20. 『北極域の研究ーその現状と将来構想』北極研究コンソーシアム長期構想編集委員会(編) 2024.
海文堂出版. (印刷中)
担当:3.2.2「ユーラシアの北極地域」(218-224 頁)
5.2.3「河川・湖沼の氷上の利用とその持続可能性」(295-297 頁;一部執筆)
5.2.4「経済開発にともなう環境汚染と災害リスク」(297-299;一部執筆)

論文

1. 「シベリア・北方少数民族、もう一つの民族問題」1995.1『ユーラシア研究』6: 637-641
2. 「ギダン半島のトナカイ飼育ネネツ（ヤマロ・ネネツ自治管区）の食文化の現況」1996.3 齋藤農二編『シベリアへのまなざし—シベリア牧畜民の民族学的研究』（平成5-7年度科学研究費補助金成果報告書）156-164
3. 「西シベリア・ギダン・ネネツの食文化：現代極北トナカイ飼養民の食の文化的・社会的解釈」1998.6『民族学研究』63(1): 44-66
4. 「ロシア連邦先住民基本法の採択とロシア先住民の法的地位」2000.3 齋藤農二編『シベリアへのまなざし2—シベリア狩猟・牧畜民の生き残り戦略の研究』（平成9～11年度科学研究費補助金成果報告書）28-44
5. A.Yoshida, “Some Characteristics on the Tundra Nenets Reindeer Herders of Western Siberia and their social adaptation.” 2001.12 *Senri Ethnological Studies*, 59: 67-80.
6. 「ロシア・トナカイ遊牧ネネツの食の現状と構造」2001.12（財）味の素食の文化センター『食文化助成の報告』12: 73-80
7. 「遊牧ネネツの食文化（上）極北の牧畜生活と獣肉・魚肉の生食文化」2003.5『Vesta』50: 62-67
8. 「遊牧ネネツの食文化（下）移動生活者の食の空間と調理法」2003.8『Vesta』51: 68-71
9. 「極北トナカイ遊牧民の食文化—ロシア・西シベリアのツンドラ・ネネツの生活と食の現状」2003『食生活研究』23(3): 11-19
10. 「シベリア・ネネツのトナカイ飼育の現在—個人経営の現状とその特徴」2003.3 井上紘一編『社会人類学からみた北方ユーラシア世界』67-77 北海道大学スラブ研究センター
11. 「ロシアの異民族（先住民）統治史における『非定住民』：概要と西シベリアの状況」2003.11 岡洋樹・高倉浩樹・上野稔弘編『東北アジアにおける民族と政治』東北アジア研究シリーズ5: 89-109 東北大学東北アジア研究センター
12. 「ネネツのトナカイ牧畜—トナカイの個体認識と親和性」2005.3『Arctic Circle』54: 4-9
13. 「極北牧畜民の魚食文化」2006.5『ビオストーリー』5: 92-93
14. 「シベリアの牧畜民とトナカイ—家族経営の牧畜民と家畜との共存」2006.10『季刊東北学』（特集 家畜とペット）9: 136-146
15. 「ツンドラ・ネネツのトナカイ牧畜：群管理の構造と実態：2005年ギダン・ネネツ春季キャンプ調査報告」2006.10『千葉大学ユーラシア言語文化論集』9: 31-56
16. 「ネネツ—経済自由化にともなうトナカイ牧畜とその変化」2008.3『季刊民族学』（特集 ロシア北方の民—ソ連崩壊後の激動期を経て）32(2): 20-24
17. 「極北の環境とロシアにおけるトナカイ牧畜—西シベリアとサハ共和国の事例から—」2011.3『Arctic Circle』（特集 北方民族と環境4）78: 4-9

18. 「サハ共和国北部におけるトナカイ飼育と環境変化」2011.3『温暖化するシベリアの自然と人—水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応』（平成22年度FR研究プロジェクト報告）141-149
19. 「森林ネツ(ロシア・西シベリア)のトナカイ牧畜—先行研究概説—」2009.3『千葉大学ユーラシア言語文化論集』11: 1-20
20. 「ユーラシア(徳永)文庫とシンポジウム開催」2010.3『千葉大学ユーラシア言語文化論集』12: 1-3
21. 「シベリア・極北地域関係蔵書について」2010.3『千葉大学ユーラシア言語文化論集』12: 27
22. 「西シベリア・トナカイ牧畜民=ツンドラ・ネツの採捕活動と環境変化(環境変化と先住民の生業文化: 陸域生態系における適応)」2012.3.『北方民族文化シンポジウム報告書』26: 25-30
23. A. Yoshida, “Reindeer Herding and Environmental Change in Kobyai and Olenek districts, Sakha Republic”. 2012.3 *1st International Conference on Global Warming and the Human-Nature Dimension in Siberia. Social Adaptation to the Changes of the Terrestrial Ecosystem with an Emphasis on Water Environments*, 99-103.
24. 「ロシア、ツンドラ・ネツにおけるトナカイ牧畜文化の存続と変化: サハ共和国との比較の中で(環境変化と先住民の生業文化: 家畜飼育・牧畜における適応)」2014.3.『北方民族文化シンポジウム網走報告』28: 37-42
25. 「本邦における氷下(こおりした)漁撈(概論)」2015.3『千葉大学人文研究』44: 135-173
26. 「網走湖とその周辺における氷下漁: 環境依存型漁獲活動としての考察」2018.『北海道立北方民族博物館研究紀要』27: 1-14
27. 「ロシア、ヤマル・ネツ自治管区における個人経営トナカイ牧畜の変遷~最近の公式統計に基づく若干の分析~」2020.12『千葉大学ユーラシア言語文化論集』22: 1-18
28. 「日本の北方研究における千葉大学の役割」2022.3『北方民族文化シンポジウム網走報告書』35: 65-71

事典類

1. 『世界民族事典』綾部恒雄監修、弘文堂. 2000
担当箇所: 「エネツ」(122r) 「ガナサン」(163l) 「ネネツ」(492mr)
2. 『文化人類学文献事典』小松和彦他(編)、弘文堂. 2004
担当箇所: 「ザイカー(J. ZIKER) Peoples of the Tundra.」(427r)
「ゴロブニョフ(A.V.GOLOVNEV)&オシエレンコ(G.OSHERENKO) Siberian Survival: The Nenets and their story.」(425r)

3. 『世界民族百科事典』国立民族学博物館（編）丸善出版. 2014
担当箇所：「資源問題」（632-633 頁）
4. 『ロシア文化事典』沼野充義他編 2019.丸善出版
担当箇所：「狩猟・漁労・牧畜」（72-73 頁）
5. 『世界冠婚葬祭事典』川田牧人、松田素二（編）丸善出版. 2023
担当箇所：「シベリア」（334-337 頁）
6. 『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』服部倫崇・吉田睦（編）
明石書店. 2024
担当箇所：コラム「シベリアの淡水魚とその利用ーロシア人と先住民の利用法」（60-63 頁）
29「極東・シベリアの先住少数民族の生活・生業様式」（148-152 頁）
49「ヤマル・ネネツ自治管区」（260-264 頁）

その他

1. 「〈書評〉高倉浩樹著『社会主義の民族誌：シベリア・トナカイ飼育の風景』東京都立大学出版会、2000 年」2000.11『上智史學』45: 159-167
2. 「遊牧ネネツという少数民族の世界ーロシア極北ツンドラ住人への旅」2003.7『窓』125: 2-8
3. 「西シベリア・ネネツのトナカイ牧畜ーソ連解体後の動きと開発」2007. 民博通信』117: 12-13
4. 「御子柴先生を送る」2011.3『言語文化論叢』5: 9-11

写真展

- 2008 年 1～2 月 千葉大学ユーラシア学会主催写真展「ユーラシアの十字路（クロスロード）諸民族の現在」（於千葉大学附属図書館）
- 2017 年 2～3 月 文学部日本・ユーラシア文化コースユーラシア言語文化専修主催写真展「ユーラシア民族文化写真展～寒冷環境の克服と利用～」（於千葉大学附属図書館）
- 2021 年 12 月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ノーヴィイ・ウレンゴイ市文化部主催
（小中学校向けイベント）「ヤマルの諸民族文化」の一部としての「日本の民族学者吉田睦写真展」

WEB 公開資料

- 東北大学東北アジア研究センター地域研究デジタルアーカイブ
「ヤマル・ネネツ自治管区におけるツンドラ・ネネツ人：生活様式と生業」
<https://archives.cneas.tohoku.ac.jp/collection/tundranenets>

吉田睦先生フィールド調査実績

*ロシア連邦におけるトナカイ牧畜民調査

- ① 1993年7～8月 ロシア連邦サハ共和国、エベノ・ブイタantai地区、ゴールヌイ地区、(エヴェン人トナカイ牧畜民調査)
- ② 1994年4月 ロシア連邦サハ共和国ニユルバ地区(サハ人馬飼育調査)
- ③ 1994年7～8月 ロシア連邦サハ共和国チェルスキー地区、アンドリュウシキノ地区(エヴェン人トナカイ牧畜民調査)
- (①～③齋藤農二科研費及び「シベリア牧畜民の民族学的研究」(1993-1995)による)
- ④ 1995年3～4月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(ツンドラ・ネネツ人トナカイ牧畜民調査)
- ⑤ 1996年6～7月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(トナカイ牧畜民調査)
- ⑥ 1997年12～1998年1月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(トナカイ牧畜民調査)
- ⑦ 1998年3月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区サレハルド市(トナカイ牧畜民文献調査)
- (⑥～⑦齋藤農二科研費「シベリア狩猟・牧畜民の生き残り戦略の研究」(1997-1999)による)
- ⑧ 2001年10～11月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(トナカイ牧畜民調査)
- (味の素食の文化センター研究助成(2001年度)による)
- ⑨ 2005年3月～5月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(トナカイ牧畜民調査)
- (2004年度日本学術振興会二国間交流事業〔特定国派遣〕による)
- ⑩ 2008年3月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区プール地区(森林ネネツ人トナカイ牧畜民調査)
- (吉田睦科研費『極北先住民の生存・共生システムとしてのトナカイ牧畜文化の研究』(2007-2009))
- ⑪ 2009年7～8月 ロシア連邦サハ共和国コビヤイ地区ラムインヒン・エヴェン民族区(エヴェン人トナカイ牧畜民調査)
- ⑫ 2010年8～9月 ロシア連邦サハ共和国オレニョク・エヴェンキ民族地区(エヴェンキ人トナカイ牧畜民調査)
- ⑬ 2013年2～3月 ロシア連邦サハ共和国オレニョク・エヴェンキ民族地区(トナカイ牧畜民調査)
- (⑪～⑬総合地球環境学研究所プロジェクト、檜山哲也代表「温暖化するシベリアの自然と人—水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応」(2009-2013)による)

⑭ 2016年8～9月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区（ツンドラ・ネネツ人トナカイ牧畜民調査）

⑮ 2017年8～9月 ロシア連邦モスクワ市・チュメニ市・サレハルド市（トナカイ牧畜民文献調査）

（⑭～⑮平田昌弘科研費「乳文化の視座からの牧畜論考—全地球的地域間比較による新しい牧畜論の創生」（2014-2019）による）

*本邦における氷下漁業調査

⑯ 2013年8月 秋田県八郎潟（八郎潟における氷下漁業に関する文献・聞き取り調査）

⑰ 2014年1月 北海道網走市（網走湖、能取湖における氷下漁業調査）

⑱ 2014年3月 長野県諏訪湖（諏訪湖における氷下漁業に関する文献・聞き取り調査）

⑲ 2014年8月 青森県小川原湖（小川原湖における氷下漁業に関する文献・聞き取り調査）

⑳ 2015年1月 北海道網走市（網走湖、能取湖における氷下漁業調査）

㉑ 2017年1月 北海道網走市（網走湖、能取湖、サロマ湖における氷下漁業調査）

（⑯～㉑吉田睦科研費「気候変動条件下における氷下漁の環境文化論的研究」（2013-2017）による）